

# With

東北大学病院  
地域医療連携センター通信

第12号  
2009.5

## CONTENTS

- |   |                                 |
|---|---------------------------------|
| 1…… 新看護部長就任のご挨拶                         | 6…… 先進医療のご紹介<br>～膀胱水圧拡張術～       |
| 2…… 地域医療連携協議会開催<br>新診療科長のご挨拶<br>～緩和医療科～ | 7…… 認定看護師のご紹介<br>第2回市民公開講座開催決定！ |
| 3…… 新PET/CT装置導入<br>コーヒーブレイク             | 8…… 新患日一覧<br>完全予約制のお知らせ         |
| 4…… 肝疾患相談室のご案内<br>栄養相談のご案内              | 耳鼻咽喉・頭頸部外科の<br>専門外来新患予約について     |
| 5…… 小児科のご紹介                             |                                 |



人にやさしく未来をみつめる

東北大学病院

〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1番1号  
TEL 022(717)7000(代)

地域医療連携センター

TEL 022(717)7131(直通)  
FAX 022(717)7132

## ★ SPECIAL

### 新看護部長就任のご挨拶

～ 看護部長就任にあたって ～



●看護部

菅原 美知子

平成21年4月1日付けで東北大学病院看護部長に就任いたしました菅原美知子と申します。よろしくお願いたします。当看護部は、東北大学病院の基本理念をそのまま看護部の理念とし、「患者様に優しい医療と先進医療の調和を目指した看護」に取り組んでおります。

昨年、宮城県内の病院に勤務している看護師、地域の保健師と話をする機会がありました。たいへん厳しい現状をお聞きし、大学病院の役割は何かを考えさせられました。特定機能病院であり、がん拠点病院そのほか多様な先進医療を提供する病院として求められる役割は多く、期待されております。看護部では、そのような社会的使命と高度先進医療を求めて入院される患者様に対し

て、専門分野を持つ多くの認定看護師が関わっております。Withの紙面でも紹介させていただいておりますが、17人の認定看護師の得意分野は13分野と多岐に渡っております。彼らは、当院病棟や外来で患者様に適切なケアを提供し、患者様や看護師からの相談に応じております。また、病院全体の看護の質向上のために指導・支援に当たっております。院外でも講義や研修をこなし、社会貢献を担っております。

在宅療養をされる患者様が、継続してケアを受けられるように、また地元の病院に帰れるよう病棟の看護師達も、退院支援の力をつけてきました。大学病院では、チーム医療にも力を入れております。地域連携は大きなチーム医療だと思います。地域と当院が連携を密にすることにより、それぞれが持つ得意な分野で力を発揮し、患者様を早期に地域・ご家族の元にお帰りいただいております。

看護部は、患者様がよりよい環境の中、適切な治療や看護を受けることができますように、地域連携に貢献していきたいと思っております。

## EVENT

## 平成20年度 東北大学病院地域医療連携協議会を開催しました

去る2月18日、平成20年度の「東北大学病院地域医療連携協議会」を開催しました。

この協議会は「東北大学病院に関連する医療機関との連携を密にすることにより、医療機関の機能分化を促進し、あわせて医療の質の向上に寄与する」ことを目的としており、毎年1回定期的に開催しています。

今回は仙台医療センター名誉院長・中嶋病院顧問の櫻井芳明先生に「これからの医療」という演題で特別講演をしていただきました。その後、荒井副病院長から本院の概要と特色、また建設中の新外来診療棟等についての紹介を行い、さらに循環器内科、小児外科、呼吸器内科、呼吸器外科、整形外科の5診療科長からそれぞれの科の特色についてのプレゼンを行いました。

懇親会ではフロアを移し、本院糖尿代謝科の檜尾先生を中心としたジャズバンド演奏をバックに本院の先生方と他医療機関の先生方とで、終始和やかな雰囲気の中、懇談が行われました。

平成18年2月に設立したこの協議会ですが今回で4回目となり、情報交換の場として定着しつつあるようです。



## INFORMATION

## ● 新診療科長のご挨拶 ●

## ■ 緩和医療科 新科長

● 大学院医学系研究科 外科病態学講座緩和医療学分野 特命教授



中保 利通 教授

平成11年11月に麻酔救急医学講座疼痛制御科学分野教授として赴任された山室誠先生が平成20年3月に退職された後、加藤正人麻酔科教授に当科の科長を兼担していただいておりますが、このほど平成21年2月より緩和医療科の診療科長を中保(なかほ)が担当させていただくことになりました。皆さまどうぞよろしくお願い申し上げます。

緩和医療科の診療・教育・研究活動は外科病態学に限らず、医学・医療の各分野にまたがる横断的なものであり、がん治療を支えるもうひとつの大切な医療として広く注目を集めています。特に2007年4月にがん対策基本法が発効し始めてからは、政府・厚生労働省から地方公共団体レベルにまで具体的な達成課題が定められることとなりました。

当院も都道府県がん診療連携拠点病院として認可され、その要件のひとつとして緩和医療の提供体制を整備していくため努力するとともに、他病院に対しても研修指導的な役割を果たす任務を引き受けることになったことは皆さんもよくご承知の通りです。

平成22年4月には緩和医療学会認定専門医1期生が誕生することになっています。当院からも自他共に認める緩和医療のエキスパートを多数送り出せるように、緩和ケア病棟や緩和ケアチームを拠点にした診療・研修体制を着実に整備していきたいと考えています。

INFORMATION

## 本年4月より本院にて2台目のPET/CT装置が稼動を開始しました

本院では、平成15年10月よりPET専用機を用いた診療を開始し、平成17年にはPET/CT複合機(以下、PET/CT装置)を導入しました。PET/CT装置は、文字通りPET装置とCT装置がドッキングした装置です。同一寝台にて両者のデータを収集することにより、位置ずれの少ない重ね合わせ画像を容易に得ることができ、PET検査薬の集積部位の同定が可能となり、診断精度が向上しました。また、検査時間もPET専用機に比べ、約1/2に短縮し、患者さまには楽に検査を受けて頂けるように

なりました。平成15年の稼動開始以来、依頼件数は、年々増加してきていましたが、ここ1,2年は、検査件数が3,000件に迫っており、1台の装置での検査件数の限界に達していました。このため、待ち日数が3週間になることも多く、患者さまにはご迷惑をおかけしており、2台目のPET装置の導入が、切望されていました。今回導入された装置は、既設のPET/CT装置と同一のシーメンス社製のPET/CT装置で、LSO検出器を搭載したPET装置と40列のマルチスライスCTの複合機で、全身の腫瘍検索に加え、心臓の心電図同期検査も行うことができるようになっています。



● 現有装置



● 新装置

2台目のPET/CT装置の稼動により検査待ち時間の短縮が期待されております。これまでは院内の患者さんの検査で手一杯でしたが、今後は、院外の患者様の検査にも十分に対応可能になると思われまます。なお、検査申し込みの詳細につきましては、地域医療連携センター(TEL 022-717-7131)までお問い合わせ下さい。

## ～高度救命救急センターのリアルな毎日をお届けします～ \* コーヒーブレイク その12

### ● その1 メタボ

他の科もそうであろうが特に救急に居ると食事が不規則になりやすい。

ちなみに以前の私の食事状況を書くと…。朝はギリギリまで就寝。起きて数十分で仕事開始。お昼は救急対応や入院患者さんの処置・治療に追われ、気が付いたら夕方ということがしょっちゅう。夕食も出前がほとんど。どうしても揚げ物や炒め物で味の濃い物、油ギトギトの物を食べる事が多かった。でも腹が減っているところがやたらうまい。さらに当直や夜間オンコールで呼ばれて仕事をするともた腹が減ってお菓子やコンビニ弁当、吉牛をバクバク食べてしまう。腹いっぱいになると眠くなり、食後間もなく寝て、朝はまたギリギリまで寝て仕事。空いた時間で運動でもすればいいけどなかなか出来ず、横になってゴロゴロ。まさに牛状態。

こんな生活なので太らないわけがない。仕事を立て込んでこんなに忙しくても消費するカロリーをはるかに上回る食事内容なので痩せたような気がしても体重は順調に増えていく。大学卒業時は70kg前半だったのに、気が付いたら2～3年前には100kg近くになってしまった。転勤する度に撮影する顔写真はどんどん丸くアンパンマンみたいになり、動きも明らかに鈍くなった。それでもなんだかんだ自分に言い訳をし、見て見ぬふりをして同じ生活をしていたのだが、ある日靴下を履こうとしたら両手で靴下を履けなくなってしまっていた。さすがに体が硬くなっただけでは説明がつかなくなりダイエットを開始することになった。

妻の協力もあり食事の量と内容の制限食、ジムでの運動をす

るようになって1年後には数年ぶりに70キロ台を取り戻しホッとした。その後は何とかその体重を維持しているが、ちょっと油断すると怪しくなる。やっぱり食べていないようで、結構摂取カロリーが多いのと運動不足なんだあと痛感している。何より患者さんと食事制限の説明をする時に医師が太っていると説得力がない。医者の不養生なんてかっこ悪い。やはり模範となるべくせめて平均的な体型でいたいなあと思う今日この頃である。

### ● その2 こころの病

たまには終始真面目なお話し。

全国的にでもあるが、最近自殺企図での救急搬送が多くなって印象がある。薬を大量に飲んだり、練炭を焚いての一酸化炭素中毒、電車や車に飛び込む、自分で自分を傷つける等方法は色々である。既往歴に精神科通院歴のある人が多いが最近には特にそういった既往のない人が増えてきている印象である。やはり深刻で長期化している景気低迷・不況が大きく影響していると思われる。

当院の救命センターでは、救命と中毒・外傷の治療を行い、心の病は精神科の先生にお願いしている。中には通院を拒否してしまう人も。そこは本人・家族の協力なしには治療困難であるが内服によって病状が改善する人も多いので何とか頑張って欲しいと思いつつ退院を見送っている。ただ、最近は一入暮らしや核家族化など周囲のケアが行き届きにくい環境も再発を押さえきれない1つの要因とも思われる。不況はこんなところにまで影響するのだなあと考えさせられるとともに、政治家の先生には病院へのお金だけでなく社会・経済の早急な安定化をもっと頑張って欲しいところである。

高度救命救急センター医師 S.Y



INFORMATION

## 肝疾患相談室をご利用ください

肝疾患でお悩みの患者様がいらっしゃいましたら、肝疾患相談室をぜひご紹介ください。

当院は、肝炎診療連携拠点病院として、各専門医療機関とかがかりつけ医との連携体制の構築に取り組んでいます。院内外の患者さまやご家族、地域の皆様から「肝疾患」についてのご相談

をお受けするため、「肝疾患相談室」を開設しております。相談室では、相談員が、相談内容によっては専門医と連携しながら問題解決のお手伝いをさせていただきます。

健康診断などで、脂肪肝や肝機能の異常を指摘された方、B型肝炎やC型肝炎など慢性肝疾患でお悩みの方、肝臓がんの治療についてのご相談などを、専用電話、または医療相談室窓口でお受けいたします。当院肝臓専門外来のご案内もいたします。

### ● 肝疾患相談室 ●

《相談日》 月曜日～金曜日(休診日を除く)  
8時30分～16時

《相談料》 無料

《電話》 022-717-7031(直通)

#### 《相談内容例》

- 肝疾患の一般的な症状や治療について教えて欲しい。
- 肝炎治療にかかる金額や助成金について教えて欲しい。
- インターフェロン治療を勧められているが、副作用が心配で決められない。
- インターフェロンによる脱毛で悩んでいる。皮膚科を受診すべきでしょうか？
- 輸血をしたことがあり、感染が心配。肝炎の検査を受けたいがどうすれば良いか？

INFORMATION

## 他医療機関からの栄養相談・栄養指導をお受けしています

東北大学病院では最寄りの医療機関から直接、外来栄養相談・栄養指導のお申し込みが可能となりました。対象疾患は炎症性腸疾患(クローン病・潰瘍性大腸炎など)です。

栄養相談・指導内容は以下のとおりです。

### 身体計測による栄養状態の評価

- 体成分分析装置 In Body® 計測  
(BMI・除脂肪体重・筋蛋白量・体脂肪量・体水分量・体細胞量・皮下脂肪厚など)
- 間接熱量計測定(安静時基礎代謝量)  
(状態に応じたエネルギー必要量の算定)

### 摂取栄養量・充足率の評価

- 食事摂取状況の確認や、経腸栄養、静脈栄養を含めた充足率の評価

### 許可された範囲での経口食に対する食事指導

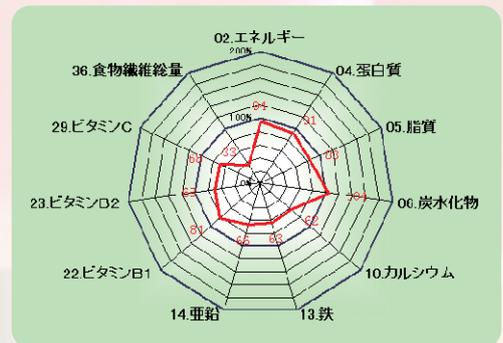
- 食事内容の工夫や不足する栄養素に対する具体的な補充方法の提案など

### 便性コントロールなど

栄養相談・栄養指導をご希望の患者さまがいらっしゃいましたら、胃腸外科 IBD 栄養相談外来(毎週木曜日)へご紹介ください。

なお、胃腸外科は新患の完全予約制を実施しておりますので、当院地域医療連携センターにてご予約をお願い致します。

※ご予約のお申し込み方法についてご不明な場合には  
当院地域医療連携センター (TEL 022-717-7131)  
にお問い合わせください。



## 小児科のご紹介

科長 土屋 滋 教授

### 小児科の特色

小児科は、地域の救急医療、新生児医療において、常に社会から大きな注目を集めている科です。当科は、宮城県内の救急医療、早産児・新生児医療の要として大変大きな貢献をしています。しかし、実際の大学病院小児科の診療内容ははるかに多彩で、未熟児・新生児期、乳幼児期、学童期、思春期のヒトに発生する心と体の問題のすべてに関する最先端の医療を行っています。当科には、稀な疾患の蓄積があり、またそれを支える高度な専門家集団が用意されています。小児科という単科で、すべての体の部位に対応する高度な専門家を擁しているということを是非知って頂きたいと思います。どうぞ、困っている患者さんがおられたら、いつでも誠意を持って対応いたしますので、ご相談ください。

### 血液疾患・小児がん・先天性免疫不全症候群の治療

小児科病棟は54床で運営されていますが、半数以上は小児がん患者が占めています。小児がんに対しては、大規模治療研究により、治療成績の向上と、治癒後の患者QOLの維持に配慮した医療を目指しています。また、先天性免疫不全症の領域では我が国の拠点病院の一つとして、診断と治療法の確立に大きな実績を残して来ています。

### 先天代謝異常症の治療

この領域の診断・治療において、伝統的に、日本のみならず世界から注目されている極めて専門性の高い診療領域です。フェニルケトン尿症、メチルマロン酸血症、糖原病、シトリン血症、リソソーム病などには、最新の知見を取り入れ、新しい治療法の確立、実行に努力しています。

### 神経疾患の治療

脳炎・脳症、変性疾患、てんかん、筋疾患、自閉症、学習障害などの幅広い神経疾患に対し、MRI、SPECT、PET、光トポグラフィ、脳磁図、ビデオ脳波モニタリングなどを駆使して診療しています。発達支援外来は、社会からの要請の極めて高い外来です。

### 内分泌疾患の治療

低身長、甲状腺疾患、副腎疾患、水・電解質異常、骨系統疾患、カルシウム・リン代謝異常などを扱っていますが、さらに最近

は小児がん治癒後の内分泌異常が大きく注目されており、その重要性がますます認識されて来ています。

### 腎疾患の治療

学校検診における血尿・タンパク尿の精査、治療にあたっています。ネフローゼ症候群、慢性糸球体腎炎、腎尿細管障害、慢性腎不全などの治療に加えて、重症患者の腎機能評価について専門的視点から検討を行い、治療を行います。

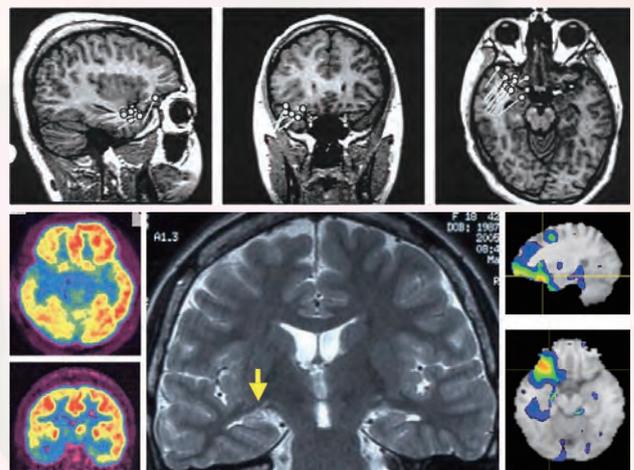
### 循環器疾患の治療

生まれつき心臓に病気がある先天性心疾患や、不整脈、川崎病、心筋症、心筋炎などの小児のすべての心臓病を対象に診断、検査、治療を行っています。手術に至る患者さんも多く、心臓血管外科と緊密な連携をもって治療にあたっています。

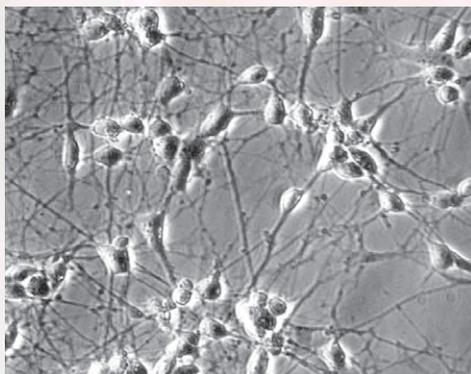
### 新生児・早産児の治療

東北大学病院周産期センター新生児集中治療室(NICU)12床、継続保育室(GCU)15床で運営され、産科との緊密な連携のもとに、母体ならびに妊娠合併症、胎児異常、成育限界児など最重症患者を率先して受け入れ、高度な早産児・新生児医療に当たっています。

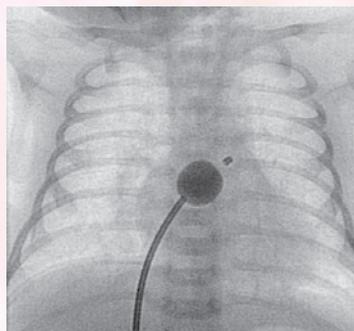
●ご連絡先 TEL 022-717-7744 (小児科外来)



側頭葉てんかんの画像診断



レチノイン酸により分化した神経芽腫細胞



カテーテルによる小児心臓疾患の治療



NICUでは産科との緊密な連携のもとに新生児医療にあたっています。

## 泌尿器科: ～ 膀胱水圧拡張術 ～

泌尿器科 中川 晴夫 講師

膀胱水圧拡張術とは、間質性膀胱炎という疾患を診断・治療するための方法です。間質性膀胱炎は20歳から60歳の女性に多くみられ、頻尿（尿が近いこと）や尿意切迫感（突然起こる強い我慢が出来ない尿意）、時に蓄尿に伴う痛みが症状としてあげられます。この疾患は、症状が過活動膀胱や細菌性膀胱炎と症状が類似していること、疾患自体がまだあまり知られていないことなどにより、診断されずに困っている方が少なくないといわれています。中には、10年以上あちこちの医療機関で異常がないといわれ、当科で初めて診断がなされた方もいらっしゃいます。最近では抗コリン剤や抗生剤など、通常の治療で改善しない難治性の頻尿の場合には本疾患を疑うべきであると考えられています。以前は間質性膀胱炎の症状は蓄尿時の疼痛が特徴的といわれてきましたが、疼痛が起こる前に排尿してしまい頻尿となる方も多いため、疼痛が伴わない場合も少なくありません。間質性膀胱炎についてはこれまで様々な研究がなされてきましたが、未だに病因は確定されていません。しかし、この膀胱水圧拡張術を行うことにより診断を確定することが可能となります。さらに、水圧拡張術は治療としても第一選択の治療法と考えられており、診断と治療とを同時に行うことが可能です。

水圧拡張術は無麻酔で行うと激痛を伴うため、脊椎麻酔または全身麻酔下に手術室で行っています。膀胱内を内視鏡で十分観察し膀胱癌などの他疾患のないことを確認します。間質性膀胱炎の場合には拡張前の膀胱内の血管が增生

していることが多いといわれています（図1）。その後、生理食塩水を注入してゆき、膀胱内に十分生理食塩水が充満した状態から80cmH<sub>2</sub>O程度の圧力で数分間拡張します。間質性膀胱炎の場合には拡張に伴い粘膜下に線維性の膨隆が出現し、血管での血流の途絶がみられる事があります（図2）。拡張後に膀胱内の生理食塩水をゆっくりと排水してゆくと膀胱の血管が破綻し、点状出血（図3）や五月雨状出血（図4）といわれる出血がみられます。これらが見られた場合には間質性膀胱炎の診断となります。また、ハンナー潰瘍と呼ばれる潰瘍性の病変が合併していた場合にはその部分を電気焼灼することにより疼痛の軽減がみられることが多いため同時に電気焼灼を行います。水圧拡張後の出血は膀胱の上皮内癌や尿路結核などでもみられることがあるため、これらを否定するためには膀胱の生検が必要となりますが、水圧拡張前に膀胱生検を行うと膀胱破裂の危険性が高くなるため、水圧拡張後に膀胱生検を行っています。

当科では5年以上前から間質性膀胱炎の診断・治療のために水圧拡張術を積極的に行ってきましたが、2009年2月より先進医療として認定されました。現在、1回の水圧拡張術に伴い38,800円を先進医療費として患者様にご負担頂いています。膀胱水圧拡張術は手技としては簡便ですが、これまで広く知られていなかった疾患に対する診断と治療を同時に行うものであり、保険診療としての認可が待たれます。



図1

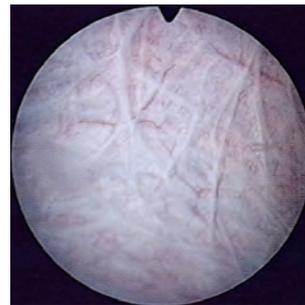


図2

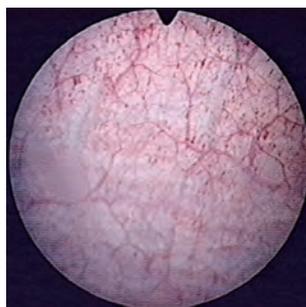


図3

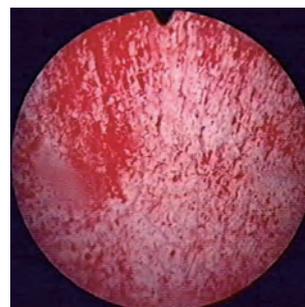


図4

●お問い合わせ：泌尿器科外来 TEL 022-717-7756（直通）

＋ SERIES / 認定看護師紹介

認定看護師とは、「看護ケアの広がりや質の向上を図るために、日本看護協会が認めた特定の分野における熟練した看護技術と知識を有する看護師」をいいます。現在は17の認定分野があり、当院では、13分野17名の認定看護師が「実践」「指導」「相談」の役割を果たすべく活動を行っています。今回は、緩和ケア認定看護師の活動を紹介します。

第10回：緩和ケア認定看護師

西17階病棟 伊藤 美智子

昨今、医療者だけではなく、社会的に「緩和ケア」に対する認識や理解が深まっています。「緩和ケア」は病気のどの時期にも必要なケアであるといわれています。今回は、私が勤務している緩和ケアセンターについて紹介いたします。

東北大学病院緩和ケアセンターは、平成12年10月に開設しました。病室は畳の部屋4室を含む22室あります。ボランティアさんによる「ラウンジ」でのティーサービスや、生けていただいているお花によって癒しの空間を演出していただいています。他の設備として、電子レンジ、コンロ、鍋や炊飯器があり、材料さえあれば料理ができる「キッチン」、ご家族が利用できる「家族室」、「家族浴室」があり、ご家族にとって、



病棟内のラウンジの風景



病室

できるだけ過ごしやすい環境を提供できるよう設置されています。

これまで、のべ約1,200名の方々が入棟し、退院されています。

入棟の対象となるのは、がんの治療を終了し、様々な身体的な症状の緩和が必要となった状況にある方です。

特に、がんの治療を終了した時期には様々な身体的・精神的症状を伴います。そのような方々に対して、緩和ケアセンターでは、症状を緩和するよう、また、その方にとってのQOLが維持できるように、あらゆる職種でかわり、チーム医療を提供しています。

また、緩和ケアセンター入棟に当たってご本人やご家族は、入棟するかどうかを考え、辛さを感じながら、療養する場所を選択し、決定していらっしゃると思います。そのような、今までの辛さや、これからの不安や心の揺れを支えられるよう、ご本人やご家族の思いを聴かせていただくように心がけています。

がん罹患数が増加の一途をたどる中、課題は多くあります。苦痛が少なく入院生活を過ごせるように、私達の努力は続きます。

\*緩和ケアセンターのホームページを開設しておりますので、ぜひご覧ください。

<URL>

<http://www.pcc.med.tohoku.ac.jp/>

病棟の窓から見える風景



INFORMATION

東北大学病院 第2回市民公開講座開催決定！

昨年9月に東北大学病院全体としては初めてとなる市民公開講座「心臓病から市民を守る－東北大学病院の取り組み－」を開催しました。申し込み受付開始直後から多数の参加ご希望を頂き、当日は会場がほぼ満員状態となり展示コーナーに特設ビデオブースを設けるほどの盛況ぶりでした。

この度、第2回目となる市民公開講座の開催が決定致しましたのでお知らせします。今回の芸能人ゲストは毒蝮三太夫さんです。展示コーナーも、当院をより身近に感じて頂き、健康意識向上のきっかけとなるようにと、検討を重ねて企画しましたので、皆様ぜひ足をお運びください。今後も年に2回、開催していく予定です。

日時：平成21年6月28日(日)  
13時～15時30分

会場：仙台国際センター 大ホール

テーマ：「消化器病から市民を守る  
－東北大学病院の取り組み－」

内容：第1部 基調講演  
第2部 「ママシ流 心と体の健康法」  
～毒蝮三太夫さんによる講演～  
第3部 パネルディスカッション

左記プログラム他、別会場に展示コーナーを設けています。

- ボディーコンポジションアナライザーによる栄養評価
- カプセル内視鏡の展示
- 東北大学病院紹介のポスター展示
- 超音波による脂肪肝チェック
- 医師、看護師によるお腹の健康相談
- ドリンク無料提供

※上記の展示は先着順での整理券配布や時間制限を設けているものがございますので事前にお問い合わせください。



- \*事前申し込みが必要です。(締め切り：6/15)
- \*定員となり次第、締め切りとさせていただきます。

お問い合わせ

東北大学病院 地域医療連携センター  
電話 022-717-7131  
(土・日・祝祭日を除く8時30分～17時15分)

**\*新患日一覧\***

※受付時間は8時30分～11時までとなっております。(皮膚科は10時まで、眼科は11時30分までとなっておりますのでご注意ください)  
 ※( ) 内の電話番号は各診療科外来です。 (H21.5現在)

循環器内科 (022-717-7728)	月～金		食道外科：水・木	小児外科 (022-717-7758)	月・木
感染症科 (022-717-7766)	月・水・金	移植・再建・内視鏡外科 (022-717-7742)	血管外科：月・火	皮膚科 (022-717-7759)	月・火・水・金 受付時間(8:30～10:00)
腎・高血圧・内分泌科 (022-717-7778)	水・金		移植・肝臓外科：火・金	眼科 (022-717-7757)	月～金 ※予約制 受付時間(8:30～11:30)
血液・免疫科 (022-717-7730)	水・金	心臓血管外科 (022-717-7743)	木・金	耳鼻咽喉・頭頸部外科 (022-717-7755)	月・水・金
糖尿病代謝科 (022-717-7779)	火・金	整形外科 (022-717-7747)	月～金	肢体不自由リハ科 (022-717-7751)	月・水・木・金
消化器内科 (022-717-7731)	火・金	形成外科 (022-717-7748)	月・水・金	運動機能再建リハ科 (022-717-7751)	月・水・木・金
老年科 (022-717-7736)	水 ※もの忘れ外来は 完全予約制	麻酔科 (022-717-7760)	月・水・金 ※術前相談 のみ	内部障害リハ科 (022-717-7751)	月・水・木・金
漢方内科 (022-717-7736)	水午前・金午後 ※予約制	緩和医療科 (022-717-7768)	月・木 ※完全予約制	高次機能障害リハ科 (022-717-7751)	月・水・木・金
心療内科 (022-717-7734)	月・水・金 ※完全予約制	呼吸器外科 (022-717-7877)	月・水・金	放射線治療科 (022-717-7732)	月・木・金 ※完全予約制
呼吸器内科 (022-717-7875)	月・水・木・金	婦人科 (022-717-7745) 産科 (022-717-7746)	月～金 H21年7月より完全予約制	放射線診断科 (022-717-7732)	CT・MRI検査外来 月～金 インターベンション・画像診断外来 月・木
腫瘍内科 (022-717-7879)	月・水・木 ※完全予約制	泌尿器科 (022-717-7756)	月・火・水・金 ※完全予約制		
肝・胆・膵外科 (022-717-7740)	月・金 ※完全予約制	神経内科 (022-717-7735)	火・金	加齢核医学科 (022-717-7880)	火・水・木
胃腸外科 (022-717-7740)	一般新患：月・水・金 ※完全予約制	脳神経外科 (022-717-7752)	月・木・金	総合診療部 (022-717-7509)	月～金
	胃腸悪性疾患：水 ※完全予約制	脳血管内治療科 (022-717-7752)	火・金		
	炎症性腸疾患：木 ※完全予約制	精神科 (022-717-7737)	月・水・金 ※完全予約制		
乳腺・内分泌外科 (022-717-7742)	乳腺外科：月・水・木	小児科 (022-717-7744) 小児腫瘍科 (022-717-7878)	月～金		
	甲状腺外科：火・金	遺伝科 (022-717-7744)	月～金 ※完全予約制		

**INFORMATION**

**完全予約制のお知らせ**

下記診療科につきましては、新患の完全予約制を導入することと致しました。

患者さまをご紹介頂く際には、お手数をおかけしますが、患者さまの待ち時間短縮のため必ず当院の地域医療連携センターでご予約頂きますよう、ご理解とご協力をお願い致します。

**精神科**

5月1日より**完全予約制**となりました。

- ▶新患受付日：月・水・金
- ▶新患予約枠：9時または10時(1日につき4枠)

**◆緊急入院の希望**

精神科外来(022-717-7737)にご連絡ください。病棟担当医師が対応いたします。

**◆SAFE クリニックの受診**

早期精神病の専門外来、SAFE クリニックにつきましては、精神科外来(022-717-7737)にご連絡ください。新患枠とは別個に対応させていただきます。



**産科・婦人科**

7月1日より**完全予約制**となります。

- ▶婦人科新患受付日：不妊症新患外来：月・水
- ▶産科新患受付日：腫瘍新患外来：火・木
- その他：月・水・金

**耳鼻咽喉・頭頸部外科の専門外来  
新患予約について**

このたび、耳鼻咽喉・頭頸部外科では従来までの一般新患予約に加えて、下記専門外来についても新患予約が可能となりました。

**【新たに予約可能となった専門外来】**

- ①中耳外来(木曜)：真珠腫性中耳炎、慢性中耳炎で手術適応症例
- ②喉頭外来(第2、4火曜午後)：音声障害、嚥下障害
- ③聴神経腫瘍外来(木曜)：聴神経腫瘍(MRIにて診断されているもの)  
※その他の疾患は、一般新患でご予約ください

**【一般新患】 月・水・金**

外来担当医の専門は下記のように分かれています。急患はこの限りではありません。

- 月：頭頸部腫瘍性疾患(口腔癌、鼻副鼻腔癌、咽頭癌、喉頭癌、唾液腺癌など)
- 水：中耳、難聴疾患、咽頭頭疾患
- 金：鼻副鼻腔疾患(慢性副鼻腔炎など)

患者様の待ち時間短縮のため、是非ご予約をご利用ください。

**新患ご予約方法**

1. 地域医療連携センター宛に「診療予約申込書」をFAXにてご送付ください。
2. 予約日を調整し15分以内に予約票を返送致しますので、患者さまにお渡し願います。  
※「診療予約申込書」がお手元ない場合にはご連絡を頂ければ至急FAXにてお送り致します。また、HPからダウンロードして頂く事も可能です。



編集・発行 東北大学病院 地域医療連携センター TEL: 022-717-7131 FAX: 022-717-7132  
E-mail: ijik002-thk@umin.ac.jp

ご意見、ご要望がございましたら、地域医療連携センターまでお願いいたします。

